

# 集客力の決め手は、様々なイベントの企画に!?

## ◆研修地④◆「道の駅いとまん」【1/31】



ファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」

「道の駅いとまん」は、日本最南端の道の駅で沖縄県内最大の9,000坪の敷地内に「産地直送の野菜や鮮魚、お土産品やグルメまで勢揃いする「道の駅いとまん」を謳い文句に賑わいをみせていた。

当初、糸満市西崎町に2002年（平成14年）11月に、「JAおきなわ」が総事業費3億円をかけて、ファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」をオープン。

その後、2007年（平成19年）9月、マーケットの隣接地に糸満漁業協同組合が総事業費1億6千万をかけて「お魚センター」を設置。

そして、その一帯を道の駅にできないかということで、2009年（平成21年）4月「道の駅施設管理組合」を設立し、「道の駅いとまん」として開駅したが、2009年（平成21年）6月。

さらに、開駅に合わせて建設計画を進めていた障害者就労支援施設「イノー」や物産センター「遊食来（ゆくら）」を2009年（平成21年）8月と9月にそれぞれオープンさせた。

障害者就労支援施設イノーでは、手作り総菜や県産土産、輸入食品などを加工・販売する「deli-ino（デリノー）」と「CAFE VINCA（カフェ・ヴィンカ）」の2店舗の形態で営業し、障害者が加工や接客の業務で働く。全国でも福祉施設を備えた道の駅は初めて。

イノーでは糸満市や那覇市など本島南部6市町に住む知的や身体、精神の障害のある約30人が雇用されており、道の駅構内のファーマーズマーケットやお魚センターなどの他施設との相乗効果による集客を見込んでいる。

今回、「道の駅いとまん」を訪れて、約30,000㎡という巨大な敷地面積に驚いた。そして、施設を訪れる人々の多さにも驚きました。広大な駐車場があるのかかわらず、車を停めるスペースを探すのにも一苦労したものです。遠くは、那覇市からの買い物客も多いとのことでした。ちなみに、土地柄でしょうか、駐車場の整理員はいませんでした。

広大な敷地内の一角にあるファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」は、建物面積だけで1,200㎡を超え、沖縄の様々な農産物が揃っており、まさに沖縄最大の「八百屋」であった。

そして、お隣の「お魚センター」には、10店舗以上の魚屋さんが軒を連ね、同業者でありながら、それぞれの特徴あるサービス売り物にしていた。

糸満漁業協同組合の「お魚市場」と物産センター「遊食来」



さらに、物産館「遊食来」では、建物面積1,429㎡の中に、地元の土産物などはじめ様々な商品を揃え、各種レストラン等がテナントとして入っており、昼食時には賑わっていた。

また、障害者就労支援施設「イノー」でも同様にレストランやカフェなどが運営されている。

ところで、我々が研修で訪れた時、道の駅施設管理組合が「うまんちゅ市場」「お魚センター」と物産センターの「遊食来」の間をアーケードで覆う工事が施工されており、今後の展開が楽しみな「道の駅いとまん」であったが、集客力の裏には、様々なイベントの企画があり、顧客に対し頻りにチラシを配布していることが功を奏している感じがした。

障害者就労支援施設「イノー」



「道の駅いとまん」の施設概要（設立順）	
①平成14年11月23日	JAおきなわファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」設立 敷地面積…7,525㎡ 建築面積…1,208㎡ 事業費…3億円 平成25年度売上上げ…15億円 平成25年度利用客数…172万人
②平成19年9月27日	糸満漁業協同組合「お魚センター」設立 敷地面積…7,141㎡ 建築面積…725㎡ 事業費…1億6,000万円 平成25年度売上上げ…4億円 平成25年度利用客数…100万人
③平成21年4月23日	「道の駅施設管理組合」設立
④平成21年6月12日	「道の駅いとまん」開駅 ※ 日本最南端の道の駅
⑤平成21年8月28日	障害者就労支援施設「イノー」設立 敷地面積…2,357㎡ 建築面積…858㎡ 事業費…2億1,300万円 平成25年度売上上げ…7,000万円 平成25年度利用客数…2万人
⑥平成21年9月8日	物産センター「遊食来（ゆくら）」設立 敷地面積…3,696㎡ 建築面積…1,429㎡ 事業費…1億8,000万円 平成25年度売上上げ…2億円 平成25年度利用客数…38万人

# 「基地問題」と向き合って!!

## 研修地③◆「道の駅かでな」【1/30】



「道の駅かでな」は、別名は、「嘉手納町屋良東部地区地域振興施設」というものであった。

この施設は、2003年（平成15年）4月に開駅。「沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業費補助金」を利用して造られた。

RC（鉄筋コンクリート）構造の4階建てで、写真でも分かるように「航空管制塔」を模して建てられており、4階が極東最大の軍事基地である嘉手納基地を望む展望所になっている。（望遠鏡3台設置）

1階は、案内・休憩室、トイレ、特産品展示販売場、軒下広場、特産品手づくりコーナー、多目的広場、軽飲食コーナー、駐車場（66台）を完備。

2階は、レストランがあり、基地を眺めながら食事が可能となっている。

3階には、学習展示室があり、米軍基地が町の83%を占める沖縄の縮図のような町の歴史や米軍基地に関する資料等を展示し、来館者に世界の恒久平和についての学習の場としていた。

管理運営方法としては、2003年（平成15年）4月から2006年（平成18年）6月までは委託業務。2006年7月より指定管理者制度移行後も第3セクターの「かでな振興株式会社」が指定管理者となっている。

管理運営費は、利用料金・共益費・指定管理料（町より4,000千円）及び販売機収入等の雑入より捻出している（平成25年度19,754千円）。

テナント面積は、457平方メートルで、入居数が7店舗（雇用者数約42人）。2013年度（平成25年度）売上げ実績は、2億6,578万円。「かでな振興株式会社」の資本金は、40,000千円でそのうち30%の12,000千円を嘉手納町が出資。

3階にある「学習展示室」の利用者数は、2013年度（平成25年度）①町内723人②県内10,114人③県外182,209人④国外48,904人の合計241,950人であった。しかも、これは記帳者のみの数字である。

指定管理者である「かでな振興株式会社」の設立目的は、「新しい雇用の場の創設」「効率的な公共施設管理」「役場業務のスリム化」を目的に113名の雇用。

主な業務として、警備業務（常駐警備、巡回警備、機械警備）の他、メンテナンス業務（日常清掃、定期清掃、機械設備管理、一般廃棄物収集、粗大ゴミ収集、公共施設ゴミ収集）、公園清掃業務（14公園の除草・清掃等）、指定管理業務（道の駅、マルチメディアセンター、児童館2施設、体育施設）、役場庁舎電話交換業務、町長秘書派遣業務など。

ちなみに、嘉手納町の人口は、氷川町とほぼ同じで1万4千人弱。面積が氷川町のほぼ半分の15.04km<sup>2</sup>。町の面積の83%が米軍基地であり、実際には、およそ2.6km<sup>2</sup>に1万4千人近くの人々が暮らしていることになる。

今回、「道の駅かでな」3階の学習展示室を訪れて、沖縄の人々が「基地の問題」と向き合って逞しく生活していることが分かった。

また、「かでな振興株式会社」は、我が町の「有限会社まちづくり振興会」「宮原まちづくり株式会社」「氷川町シルバー人材センター」等を併せ持ったような第3セクターであり、『役場業務のスリム化』を目的として雇用の場を創設されたもので、今後の氷川町の指定管理をはじめ様々な業務委託に関して参考となるものであった。



写真上は、嘉手納基地。写真右は、3階にある展望所